

大震災から5日が経ちましたが、津波の被害の全貌も明らかにならぬうちに、相次ぐ余震、新たな地震、さらには福島原発火災など、大震災は未曾有の影響を日本に広げています。これだけの規模で、しかも現在進行中の震災のまっただ中にいると、何かしなくちゃ、と気持ちが追い立てられる思いですが、こんな時こそ正確な情勢把握と冷静な対応が求められます。

加盟団体、患者会等のうごきを紹介します。

【消息】

先日の消息で不明だった宮城県難病連の山田さんの消息がわかりました。患者会ルートでもわからなかった一人です。家もろとも流されたそうで、今は避難所にいるとのこと。どこの避難所かは不明。

岩手、茨城などでは各団体の主だった役員はそれぞれ無事が確認されています。茨城難病連の野村副会長は、親戚の結婚式で東北に行ったまままだ連絡がつかないそうです。

【加盟団体のうごき】

○大阪難病連がいち早く街頭募金活動

（事務局の濤さんから）

3月15日17時～18時20分、大阪市役所前において、東日本大震災義援金にご協力をお願いの募金活動を、毎月行っています難病センター建設の街頭キャンペーンと参加者数は29人、頂きました募金額は、58,246円でした。あわせて行ないました。

全国筋無力症友の会では義援金の募集を行うことに

（事務局の北村さんから）

筋無力症友の会では、岩手、宮城、福島、栃木、群馬、茨城、埼玉の支部長及び一部の会員の無事を確認しています。

しかし、いまだに多くの会員との連絡はつかず、特に岩手、宮城、福島、茨城の海岸沿いにお住まいの会員が十数名おられ、安否が心配です。

今月末に発行予定の機関紙で義援金の募集を行うことにしました。義援金より急がれる救援物資については、輸送体制が整うのを待っている状況です。

○全国心臓病の子どもを守る会でも義援金のよびかけ

（事務局長の下堂前さん）

現地からは、宮城がようやく連絡がとれるようになって津波のあった地域に住んでいた県の支部長が津波との追いかけて、数秒のところでのみ込まれるところだった…
病院も制限され、患者の薬も底をつきかけてきて不安な状況になっている。遠くに移動したくてもガソリンがないため、かけることもできない。というリアルな現状が届きました。胸がしめつけられる思いです。
当会でも、義援金の呼びかけを作成して支部へ送りました。4月号の「心臓をまもる」に挟み込んで送る段取りになっています。

○全国パーキンソン病友の会、直後に18支部に電話などで連絡をとり、即日、齋藤会長からの見舞い文をFaxしました（事務局長の一樋さん）

☆各団体のうごきを、JPA事務局まで知らせてください。お待ちしております。